



米国食肉輸出連合会

<広報資料>

2009年3月2日

アメリカン・ミート 2008年の日本市場実績
ポークは4年連続 No.1、ビーフは約1.6倍に
2009年は高い品質の訴求と食卓への新鮮なメニュー提案で流通を支援

アメリカン・ミートの生産状況と対日輸出概況

米国食肉輸出連合会(USMEF <http://www.americanmeat.jp/>)は、2008年(1~12月)のアメリカン・ミートに関する輸入実績をまとめました。世界的な厳しい経済状況の中、また食の安全についてますます消費者の関心が高まる中で、2008年アメリカン・ビーフ、ポークともに、着実に日本への輸出量を増やすことができました。

アメリカン・ビーフについては、2008年の日本の輸入量^{*1}が54,109トンとなり、2007年の34,148トンと比べ約58%増と飛躍的な増大となりました。USMEFでは、外食産業、量販店に加え、CVS、弁当チェーンなどで需要が広がり、より多くの店舗で取り扱われる機会が増加したため、大きな伸びにつながったものとみています。

一方、アメリカン・ポークは、世界各地への輸出量が2008年で150万トンを超え、近年日本でのシェアも著しく拡大しています。アメリカン・ポークにおける日本の2008年輸入量^{*2}は、336,949トンとなり、前年比約24%増を記録しました。また、日本の豚肉輸入市場においては、4年連続してNo.1を獲得することができました。この結果について、USMEFでは、日本で展開してきたキャンペーンやプロモーション活動を通じ、消費者にとってアメリカン・ポークが生活に密着した日常食として認知されるようになったためと受け止めています。USMEFでは「選ばれてNo.1」をキャッチフレーズに、今後も高い品質の選ばれた理由を訴求するプロモーションを実施して行く予定です。

USMEFでは2009年も引き続き、アメリカン・ビーフ、ポークともに、着実に日本への輸出量が伸張するとみています。また、明日から始まる国内最大級の展示会、『FOODEX JAPAN 2009』においてもブースを出展し、オープンキッチンを設けて講師を招いたカットティングデモンストレーションやフードコーディネーター監修による調理実演により多彩な商品バリエーションの提案とサンプリングを実施し、商材としてのアメリカン・ミートの魅力を訴求します。

^{*1} 別添 アメリカン・ミート 統計データ p.2を参照

^{*2} 別添 アメリカン・ミート 統計データ p.4を参照

米国食肉輸出連合会 (USMEF) 組織概要

米国食肉輸出連合会(USMEF)は、米国産の牛肉、豚肉を海外の業界および消費者に広く受け入れていただくことを目的に、米国の食肉関連企業および団体が設立した非営利団体です。

USMEFは個々の商品や特定の企業を援助するのではなく、米国の食肉業界を代表して広く海外に顧客とのコミュニケーションの促進を図るとともに、農場から食卓までの、アメリカン・ミートに関する広範な情報の提供を行っています。

日本でも業界関係者や消費者に、アメリカン・ミートのおいしさを知っていただく機会を広げるために、さまざまな活動を展開しています。

■日本事務所

代表者:グレゴリー・ヘインズ (ジャパン・ディレクター)

所在地:東京都港区赤坂 1 丁目 6-19 KY 溜池ビル 5 階 〒107-0052 TEL:03-3584-3911

FAX:03-3587-0078

<http://www.americanmeat.jp/>

■デンバー本部

代表者:フィリップ M. セング (会長/CEO) 所在地:アメリカ合衆国 コロラド州 デンバー

設立:1976年

<http://usmef.org>



メディアの方からのお問い合わせ

米国食肉輸出連合会(USMEF) 原田、山庄司
電話:03-3584-3911/Fax:03-3587-0078

または広報代行

(株)ブラップジャパン 堀越、千手、戸梶
TEL: 03-4570-3192 FAX: 03-3486-6863